

Scramble Shot スクラブル・ショット

話題のニュース&トピックからコンサート&イベントまで

news

フランスの音楽教育を体験できる 「第31回京都フランス音楽アカデミー」

フランスで活躍する演奏家および教師陣が来日し、フランス政府公式機関であるアンスティチュ・フランセ関西で約2週間のマスタークラスを行う「京都フランス音楽アカデミー」。「第31回」は来年3月から4月にかけて開講する。声楽、ピアノ、弦楽器、管楽器のクラスが設けられ、期間中は約1時間の個人レッスンを計5回受講することができる。優秀受講生として選出された者は4月3日の受講生コンサートへの出演や、同アカデミーと提携するパリ・エコール・ノルマル音楽院への留学のチャンスも得ることができる(人数制限あり)。レッスンのほかに、パリ国立高等音楽院のディアナ・リゲティによる3つの特別講座——オーケストラ・オーディション対策に特化した「オーケストラスタディ」、フランスの音楽教育で重視される「初見」の実践講座、ピアノ・弦楽器クラスのアカデミー受講生を対象とした「室内楽」のグループレッスン——や、作曲家エリック・タンギーによる「現代音楽特別公開講座」なども予定。4月2日(14時30分)には、京都府立府民ホール“アルティ”にて教師陣によるコンサートが開催される。

◎第31回京都フランス音楽アカデミー

〈実施期間〉2022年3月22日～4月3日〈会場〉アンスティチュ・フランセ関西、他〈教師陣〉▽声楽：マリー＝テレーズ・ケレル▽ピアノ：エマニュエル・シュトロッセ、クレール・デゼール、エリック・ベルショ▽ヴァイオリン：オリヴィエ・シャルリエ、レジス・パスキエ▽ヴィオラ：ブルーノ・パスキエ▽チェロ：アンリ・ドゥマルケット▽フルート：ジャン・フェランディス▽クラリネット：フローラン・エオー▽特別講座(オーケストラスタディ・初見・室内楽)：ディアナ・リゲティ▽現代音楽特別公開講座：エリック・タンギー〈応募資格〉13歳以上の音楽学生、演奏家、国籍不問〈費用〉入学金1万5000円、授業料15万円※特別講座の希望者のみ別途追加料金〈応募締切〉12月15日(必着)〈問合せ〉京都フランス音楽アカデミー実行委員会事務局 075・761・2114

<https://academie.institutfrancais.jp/>

news

横浜みなとみらいホールの新企画 「プロデューサー inレジデンス」

横浜みなとみらいホールは、今年度より国内外で活躍する音楽家をプロデューサーに迎える「プロデューサー inレジデンス」を始動

することとなった。初代プロデューサーには、藤木大地が就任する。藤木は、東洋人のカウンセラーテナーとして初めてウィーン国立歌劇場にデビューし、その後も国内外で活躍を続けてきた。「初代プロデューサー就任によせて」の文章で藤木は「人と人をつなぎ、そういった人たちの仕事、雇用を新たに、そして継続的に生み出すこともまた、プロデューサーのつとめであると考え始めています」と、観客のための企画を作るという役割に加えて、「舞台を作る人たちのため」という役割も同時にしていきたいと綴った。

「プロデューサー inレジデンス」における藤木の任期は2021年9月から2023年8月までで、同ホールのリニューアルオープン記念事業や、オーケストラ・室内楽公演の企画、事業計画の策定や広報への取り組みなどのプロデュースを担当する。

上述の文章で「すでにプロジェクトは動き始めていますが、一緒に船に乗ってもいいよ、と申し出てくださる皆さんがいらっしゃいましたら、大歓迎です。ホールまでお問い合わせいただけたら嬉しいです」など、各方面と協働しながらプロジェクトを進める意思を示した。

news

バルトークのCDをイタリアで発売 F. ピーチュ & 林田麻紀

イタリア中部のベスカーラに、斬新なコンセプトで音楽産業界に新風を巻き起こしているレーベルがある。カフカの小説から名づけられたODRADEK社は、演奏家が提案する音源を審査員や、以前録音したアーティストたちに匿名で聴かせ、民主的に次のプロジェクトを選ぶのだ。2012年に生まれたこのレーベルからはすでに200枚以上のCDが出されているが、カバーの細部までこだわりが見られる。ロックダウンで録音や公演の休止を余儀なくされていたが、22カ月ぶりにODRADEK社で開かれた発売記念コンサートを10月30日に所見した。

ヴァイオリニストのフランツィスカ・ピーチュは旧東ベルリンで神童と騒がれたが、父親が西側へ脱出したため輝かしい未来が突然断たれた。そんなベルリンの壁建設60年目の節目に、一種の戦時下ともいえるコロナ禍の気分にも合い、以前より自分の人生を重ね合わせて親近感を感じていたバルトークを選んだ。CD『The Quiet Revolutionary』には、「ヴァイオリン・ソナタ第1番」、「同第2番」と《ルーマニア民俗舞曲》が収録されているが、この日の演奏はその「ヴァイオリン・ソナタ第1番」の前にグリーグ「ヴァイオリン・ソナタ第3番」が演奏され、アンコールに《ルーマニア民俗舞曲》が演奏されて盛り上がった。

ピアノを弾いた林田麻紀は東京藝術大学附属高校を経て東京藝術大学を卒業後渡欧し、ソロや室内楽のほかにも、ピーチュがコンサートマスターを務めていたドイツのヴァンターール交響楽団で長い間ピアノを担当していたという経歴の通り、深くのめり込んで弾くピーチュを泳がせる度量がある。二人が練り上げたバルトークは聴く者を深く惹き込んだ。(中 東生)



ベスカーラで行われたピーチュ(vn)と林田麻紀(p)の発売記念コンサートから

news

九州交響楽団が記者会見で 2022年度シーズンプログラムを発表

九州交響楽団は10月15日に記者会見を行い、2022年度のシーズンプログラムが発表された。音楽監督・小泉和裕も登壇し、「監督に就任して10年、この間に団員の入れ替わりもあり、若い団員の成長を見ると、楽団のためにやってきたことの実りを感じます」と語った。

同団でまだ取り上げることがない作品も積極的に演奏していくとのことで、2022年5月の定期演奏会では生誕150周年のヴォーン・ウィリアムズ作品を、7月にはツェムリンスキー「交響詩『人魚姫』」などを取り上げる。8月には再登場のアンドレア・パッチィストーニ指揮でブッチェニ《外套》(演奏会形式)他。10月には、「本当の復活になれば」と、小泉の指揮でマーラー「交響曲第2番『復活』」を演奏する。11月はカーチュン・ウォン指揮でバルトークの難曲「弦楽器、打楽器とチェレスタのための音楽」他を演奏。定期演奏会の前には、毎回先着100名限定で、演奏曲目を題材に音楽評論家や作曲家が解説する講座が開かれる(入場無料)。「天神でクラシック」は年4回の開催で、会場はFFGホール。小ホールならではの、奏者との距離の近さも聴きどころ。「名曲・午後のオーケストラ」は午後2時からの公演。山下洋輔(p)、辻彩奈(vn)、林英哲(和太鼓)、小山実穂恵(p)など、ソリストも多彩だ。

そのほか、北九州での定期演奏会も例年通り開催予定で、マタニティ・コンサート「0歳からのオーケストラ」(5月3日)は今年度の新企画。オーケストラの音色で癒しのひとときを届ける。